

「香港中文大学サマースクール（中国語コース）参加報告書」

京都大学文学部 4年

匿名希望

・学習成果

普通話の学習成果については、授業がすべて普通語で行われたため、普通話を聞いて理解する能力が向上し、普通話でコミュニケーションをとることの心理的障壁が低くなったと感じている。また授業で扱った内容の大半が、中国人のコミュニケーション方式についての内容であったため、純粋に言語的な側面だけでなく、年功序列や人情など、言語コミュニケーションに影響を与える文化的な側面についても多く学ぶことができ、中国人とのコミュニケーションをより円滑に行うことができるようになったと信じている。言語以外については、人間は何を考えどう行動するのかについて私が考えている仮説を実証するためのサンプルを多く得られ、それは実際の身体経験を通してのみ得られる非常に貴重な成果であったと考えている。

・海外での経験

いわゆる中華圏での生活は、私にとって今回が初めてであった。私は、現地の人々の行動様式や人口構成、食生活、インフラ、建築といった点について観察するために、好奇心の赴くまま毎日街を歩き回った。その結果、中華圏の一都市としての香港、アジアの一都市としての香港、国際都市・金融都市としての香港といった複数の文脈の中で、香港の現在を身体で感じる事ができた。また世界で最も高速で発展している都市の一つである深圳に行き、その発展のリアルを身体で感じる事ができたことも、非常に得がたい経験となった。

・プログラム内容

キャンパス内の寮に3週間滞在した。平日は9時半から12時15分までの午前授業と2時半から4時15分までの午後授業で構成されていた。授業は文法と会話の二つで、それぞれ異なる先生が担当し、一日おきに交互に行われた。レベル3では、主に中国人の人間関係上のマナーやコミュニケーション方式といった内容を扱った。宿題等はそれほど多いとは感じなかったが、単語や聞き取りの小テストは毎日行われた。平日の授業後と週末は基本的に自由時間であった。一週目と二週目の週末は、それぞれマカオと深圳への日帰り旅行が学校側で用意されていたため、ほとんどの学生がそれに参加した。

・進路への影響

進路への直接的な影響は特にない。しかし、国家とは何か、発展とは何か、人間は何を考えどう行動するのかといった点について、今回得られた多くの身体経験をもとに思考をより深める事ができたと感じており、それは今後の私の意思決定に影響を与える判断基準の一つになるであろうと考えている。